

茅野市八ヶ岳通信

美術館一

郷土と蓼科ゆかりの洋画家展

—山・高原・林—

7月31日(日)～

8月21日(日)

今回は、「山・高原・林」をテーマに設定し、雄大で神秘的な自然から、木立の中に咲く花まで、作家が出会った様々な自然との対話の世界を紹介します。

このテーマは、当美術館の立地の特色ともなっており、秀峰連なる山々と、広大な高原から成る大自然に抱かれて、その自然のもたらす恩恵を受けています。

平成2年より八ヶ岳・蓼科高原を中心の故郷として訪れ、中央で活躍されている作家の方々を「蓼科の洋画家展」として紹介して参りました。

そして、長期短期を問わずこの諏訪に居住し、



矢崎牧廣「奥霧ヶ峰」1970



芝田米三「大地の景(緑)」1991

この自然を描き、地域の美術界に尽力された物故作家の作品と共に展示します。

それぞれの時代の中で、作家の自然への思いが、研ぎ澄まされた感覚と、練り上げられた筆致で、独創的に表現された作品をご鑑賞ください。

郷土の作家

小平鼎・小松秀雄・志村一男・早出守雄・高橋貞一郎・田中隆夫・中川紀元・長田真弓・西岡瑞穂・宮下琢郎・宮芳平・矢崎博信・矢崎牧廣・柳澤毅一

蓼科ゆかりの作家

磯邊辰夫・大津英敏・芝田米三・田村一男・中尾彰・中根寛・松樹路人・吉浦摩耶

----- 20歳を迎えた人の 小中学生保存作品展 -----

8月15日は、当市の成人式の日に当たりますので、親元を離れて生活していて、帰省される方も多いかと思われます。

当美術館において、「小中学生作品展」として毎年開催し、保存されている作品の中から、今年20歳を迎える方々の作品を展示します。

期間は、8月14日から16日までと短いですが、御来館をお待ちしています。

写真展「諏訪の鳥たち」 ～多様な環境に生きる～

7月26日(火)～8月28日(日)

家のまわりや田畠でよく見かける鳥。川や湖などの水辺にいる鳥。里山にすんでいる鳥、高山の森林にすんでいる鳥。鳥でも他の生き物でも、種類によって生活している環境が違います。好みの食べ物をとったり巣を作ったりするのに、その種類が都合の良い場所を選んでいるわけです。

ここ20年くらいの、諏訪地方でみられる鳥は、約130種ですが、それぞれの種類がすめる多様な環境があればこそ、いろいろな鳥たちが姿を見せてくれます。諏訪地方の人里、水辺、草原、…などに、それぞれどんな野鳥がくらしているでしょうか。(財)日本野鳥の会諏訪支部の共催で、約60点の写真(県内で撮影されたもの)を展示し、地域の自然と野鳥とのつながりを紹介します。



(白駒池 / 撮影 花岡幸一)

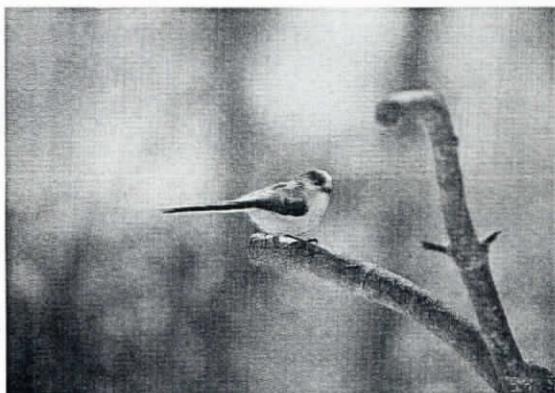
コマドリ

標高一五〇〇～二〇〇〇m位の亜高山帯に生息するが、なかなか姿が見つからない。



▲ ホオアカ 霧ヶ峰や美ヶ原などの草原で繁殖する夏鳥。花がまだ咲き始めの初夏の草原では、コヨシキリ、ノビタキなどの鳥も見つけやすい。

(霧ヶ峰 / 撮影 塩原孝茂)



▲ エナガ 人里近くの林にすむ。スズメより小さいが、ひしゃくの柄に似た長い尾羽。群れでいることが多い。他の鳥の羽毛やコケを使い、球状の巣を上手に作る。(北山蓼科 / 撮影 飛田四郎)



▲ ヨシゴイ 水辺のヨシ原にすむ。危険を感じると、口ばしを上げ体をまっすぐにのばし、ヨシのふりをする。魚やカエル、虫などをついばむ。

(諏訪市豊田 武井田川 / 撮影 代田きぬ)



▲ チョウゲンボウ 繁殖地が減りつつあるワシタ力科の中で、この種は高架橋等の建造物に巣をかけての子育てが目立つようになった。

(諏訪市小和田 / 撮影 阿部正則)

新収蔵・展示縄文土器

写真は、平成5年度に尖石遺跡の試掘調査で出土したものです。試掘調査については前回の八ヶ岳通信でも紹介しましたが、尖石遺跡の史跡整備を行なうために事前に実施しているもので、平成2年度から継続して行なわれています。

出土した土器は、いくつかの孔（穴）が口縁部（口の部分）の下を回るようにあけられており、その下に鏽（さび）が一周していることから、有孔鏽付土器と言われています。

縄文時代中期の中頃のもので、住居などの施設から離れたところから単独で出土しました。



有孔鏽付土器は、同じ縄文中期の土器と比較すると口縁部が平らであること、文様があっさりしているなどの特徴があります。

考古館には、すでにいくつかの有孔鏽付土器が収蔵・展示されていますが、その中でも北山の長峰遺跡出土のものが有名です。しかし、この土器は口縁部から底部まであり、その器形が明らかとなっていること、文様や大きさなどからも、それらに勝るとも劣らない優品と言うことができます。

茅野市では、圃場整備や工業団地の造成などに伴い、多くの遺跡の調査が行われ、数多くの遺物が出土しています。考古館でもそれらの出土遺物の中から、特に優れたものについては考古館に展示して、随時公開しています。

今回は尖石遺跡出土の有孔鏽付土器についてだけ紹介しましたが、この他にも豊平南大塩の立石遺跡出土の硬玉製の垂飾なども新しく収蔵

・展示されています。これらについても機会を見て紹介していく予定です。

一度考古館へ訪れたことのある方も、展示内容は日々変わっていますので、是非何回も来ていただきたいと思います。

縄文土器製作教室開催

考古館が主催する縄文土器製作教室も、今年で15回目となりました。

今年も初回以来講師をお願いしている遠藤昭男先生のもと、尖石友の会の会員の応援を得て参加者の指導に当たりました。

考古館で行なう土器製作教室は、収蔵している土器を間近に見ながら製作するところに特徴があります。見学者の中にも各地の博物館で土器づくりを行なっている方々が多くいますが、このように実物を見ながら製作することはないようで、いつも羨ましがられます。



今年度は2回以上参加の経験のある方たちをお断りして、できるだけ多くの初心者に参加してもらうことにしました。

今年は昨年度調査し、出土した尖石遺跡の土器や、茅野和田遺跡出土土器、棚畠遺跡出土土器などがモデルに選定されました。

これらの製作した土器は、夏の間考古館で乾燥させ、10月23日（日）に与助尾根遺跡で野焼きされます。なお、野焼きの見学などは自由です。

縄文土器製作教室は、来年度以降も継続して開催する予定です。また、教室の参加者が中心となって結成された尖石友の会の縄文土器づくりが、毎月第2の土・日曜日に開催されており、興味のある方は是非ご見学ください。

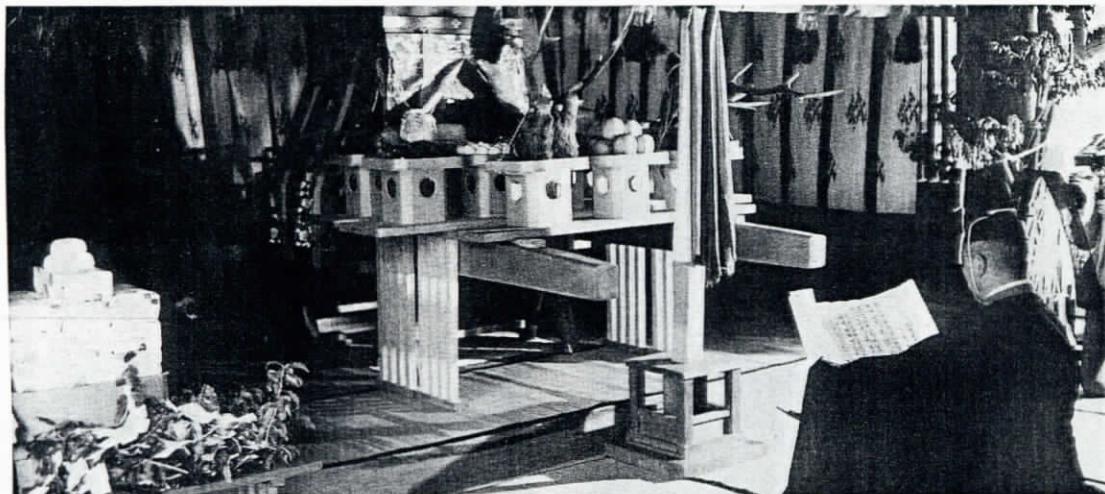
なお、開催日については、変更等もありますので、事前に考古館までお問い合わせください。

第3回企画展「守矢文書と中世の饗膳」開催中

守矢史料館では第1回「守矢文書と中世の御柱」・第2回「守矢文書と中世の村」に続き、第3回企画展「守矢文書と中世の饗膳」を8月28日まで開催しております。

饗膳とは、神へのお供えの御膳をさします。諏訪神社に年間70余あった神事の内、正月の神事や酉の祭り等を「年内神事次第旧記」「諏方大明神画詞」「大祝職位奉授書」「満実書留」より取上げ、それに関する市内遺跡より出土した遺物を文書と共に紹介しています。

中世の文化の一端をこの機会に是非ご覧下さい。



現在の酉の祭り（御頭祭）の様子。中世の饗膳はどうだったのでしょうか？

これから開催します

〈八ヶ岳総合博物館〉

小学生博物館学習の日…10月8日(土)

小学生に博物館に展示してあるものについて
学習してもらいます。

中学生博物館学習の日…11月12日(土)

中学生に博物館に展示してあるものについて
学習してもらいます。

民俗資料収蔵品展…10月16日(日)～11月13日(日)

博物館に収蔵してある資料をテーマに沿って
一部公開展示します。

第6回市内小中学生 研究・創意工夫展

…11月27日(日)～12月11日(日)

各小中学校ごとに募集した、研究・工作・絵
画などの作品約300点を展示します。

冬の探鳥会…12月11日(日)

諏訪湖の横河川河口付近で、カモの仲間やコ
ハクチョウなどを観察します。

古文書解説講座

…1月15・22・29日、2月4・11・19・26日、
3月5日、8回開催

江戸時代の文書を資料に学習します。

小講演会…9月26日(日)

「近現代の茅野市の工業」

10月23日(日)

「八ヶ岳火山について」

〈尖石考古館〉

県外者を主とした土器作り教室

…8月6日(土)・8月7日(日)

土器作り教室（野焼き）…10月23日(日)

〈美術館〉

郷土と蓼科ゆかりの洋画家展

…7月31日(日)～8月21日(日)

20歳を迎えた人の小中学生保存作品展

…8月14日(日)～8月16日(火)

移動美術展…9月2日(金)～9月14日(水)

笠原英夫個展…10月27日(木)～10月30日(日)

第14回茅野市小中学生作品展

・絵画の部…11月5日(土)～11月20日(日)

・書写の部…1月28日(土)～2月12日(日)

火曜会…11月27日(日)～12月4日(日)

絵画サークルの作品展です。

※各館の休館日は、月曜日と祝日の翌日です（美術館は月曜日
と祝日が休館）。臨時休館日等がありますのでお問合せ下さい。